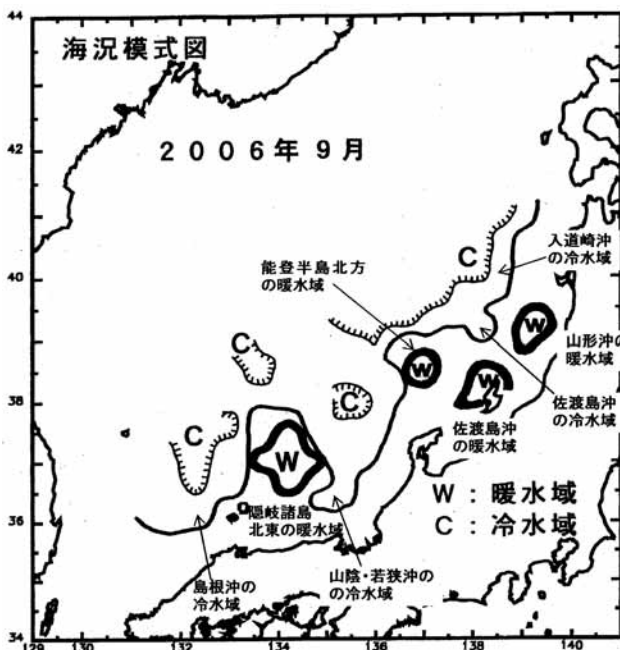


## 平成 18 年度第 3 回日本海海況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター  
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 -

### 今後の見通し(2006年10月~12月)

対馬暖流域の表面水温は、"やや高め" (+1°C程度)で経過する  
対馬暖流域の 50m 深水温は、西部では"やや低め" (-1°C程度)、  
北部では"平年並み" (±0.5°C程度)で経過する



### 2006年10月~12月の海況

隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する  
能登半島北方及び佐渡島沖の暖水域は、  
一つにまとまって北東に移動する  
山形沖の暖水域は、北に移動する

島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い  
佐渡島沖の冷水域の張り出しは やや弱い  
入道崎沖の冷水域の張り出しは 弱い

### 問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-1

電話：03-3502-8111(内線 7375、7376) 直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759

電子メール：yuusuke\_sato@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

〒951-8121 新潟市水道町 1 丁目 5939-22

電話：025-228-0451(0616)、ファックス：025-224-0950、電子メール：fra-jki@nl.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ (<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ (<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ (<http://www.jsnf.affrc.go.jp>) に掲載されます。

## 参 画 機 関

北海道立中央水産試験場	京都府立海洋センター
青森県水産総合研究センター	兵庫県但馬水産技術センター
秋田県水産振興センター	鳥取県水産試験場
山形県水産試験場	島根県水産技術センター
新潟県水産海洋研究所	山口県水産研究センター
富山県水産試験場	社団法人 漁業情報サービスセンター
石川県水産総合センター	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
福井県水産試験場	独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所

# 平成18年度第3回日本海海況予報

## 1. 今後の見通し(2006年10月～12月)

- (1) 隠岐諸島北東の暖水域は、ほぼ停滞する。能登半島北方及び佐渡島沖の暖水域は、1つにまとまって北東に移動する。山形沖の暖水域は、北に移動する。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや強い。佐渡島沖の冷水域の張り出しは、やや弱い。入道埼沖の冷水域の張り出しは、弱い。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、“やや高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“やや低め”、北部では“平年並み”で経過する。

## 2. 経過(2006年6月～2006年8月)

- (1) 6月に隠岐諸島北方及び富山湾沖でみられた暖水域は、ほぼ停滞。  
6月に能登半島北方でみられた暖水域は、北東へ移動。  
6月に能登半島西方及び山形沖でみられた暖水域は、北へ移動。  
6月に津軽半島沖でみられた暖水域は、消滅。  
8月にウルルン島南島及び積丹半島沖で、暖水域を確認。
- (2) 島根沖及び山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸。佐渡島沖の冷水域は、規模が平年並みで接岸。入道埼沖の冷水域は、小さくて接岸状況は平年並み(6月)。
- (3) 対馬暖流域の表面水温  
6月：ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”。  
7月：北海道西方で“かなり高め”～“はなはだ高め”となる海域がみられる以外は、ほぼ全域で“平年並み”～“やや低め”。  
8月：ほぼ全域で“平年並み”となり、若狭湾北方及び男鹿半島西方では“やや高め”～“かなり高め”の海域が分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部及び北部とも“平年並み”(4～6月平均)。

## 3. 現況(2006年9月)

- (1) 暖水域は、隠岐諸島北東、能登半島北方、佐渡島沖及び山形沖に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、規模は平年並みで接岸。山陰・若狭沖の冷水域は、大きくて接岸状況は平年並み。佐渡島沖及び入道埼沖の冷水域は、小さくて離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、ほぼ全域で“平年並み”～“やや高め”となり、隠岐諸島北方及び能登半島北方では“かなり高め”の海域が広範囲に分布。
- (4) 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部では“やや低め”、北部では“やや高め”(7～9月平均)。

(註) 引用符(“ ”)で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

”はなはだ高め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ

”かなり高め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ

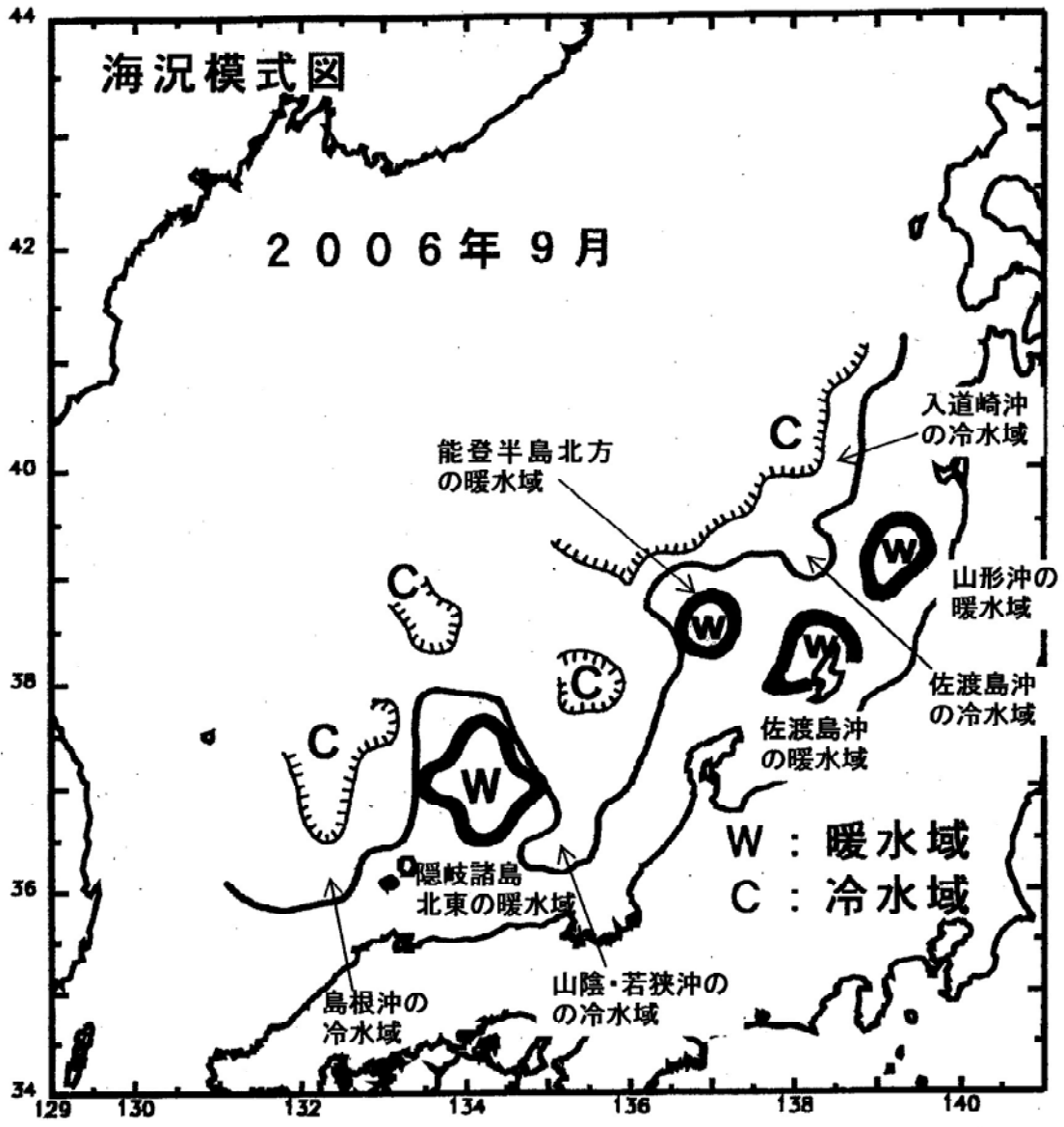
”やや高め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の高さ

”平年並み”：約2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温

”やや低め”：約4年に1回の出現確率である1℃程度の低さ

”かなり低め”：約10年に1回の出現確率である1.5℃程度の低さ

”はなはだ低め”：約20年以上に1回の出現確率である2℃程度の低さ



2006年9月の海況模式図